人の長所美点を伸ばす教育（1）

香長中学校三和分室主任　高石文一

私が現在校に赴任した当時それは荒廃其の極に達したとも云えるものでありました。その時、私は何も言わず掃除をし、破損の個所を後から後からと修理して行きました。それは決してあて付ではなく己々がもつているよい芽が出てくるのを待つていただけであります。この様な学校の状態についてそれまで先生方が何も努力しなかつたものではありません。

むしろ涙ぐましい努力が続けられていた事はよく知つています。しかしこの様な場合よく行政的な考えを持つて来勝ちで、特に悪いと思う人をとらえてこれに対して色々の欠点をあげて改める様努力をおしみません。然しすべてが悪風の中にある、その中の特にリーダー格のものを改めさそうとするのは最も困難なやり方で、相手にとつては追いつめられたという感じがして益々対抗意識を盛んにします。指導者は全体の人にふれていなくてはならないのにこの相手に対し全力を傾注するので、他の者から見ればすきだらけとなり他の者は構合から野次馬的興味をもつて事あれかしとその一騎打ちをまち望む事態になつて来ます。

この様にしているうちに他の良い者まで放つておかれて駄目になつてしまう事が多いので、この様な場合一人一人を注意してもたいがいの者は反抗的に出て来ますが中に悪かつたとあやまる者があります。

これで「充分反省した。これで良い」とするのが普通であります。

これは行政処置として一応結着は着いた事になりますが教育的には中途半端なものに止めたものであると言えます。なぜならば反省する事とよくなる事の間には心理的にはずい分距離があつて直結しないからであります。

今かりに人の短所欠点を正しくしてきたとすると相手はまず次の三つの場合のどれかを選ぶより仕方がありません。

一つは知能の低い者は自分がこれ程努力しておるのにこれ以上は出来るものかと腹をたてゝ反抗的になります。

今一つは普通の者ですとうまく自分に都合の良い口実をつくつて人がどうしたからだとか何とか説明して自分で自分の心を満足させようとする。これは自分をごまかそうとするその理論で大人でも何んでもかでも環境が悪いとか政治が悪いとかすぐ逃避してしまう事が良くある事であります。

最後にまじめに考える人はなる程自分にはそんな悪い点がたしかにあると思う。ところがそう思う事と直す事には心理的に直結しない。連絡のないものを無理にしようとすると元来出来ないものをしようとして苦しむ事になる。

自分にこんな悪い点があると客観化すると拡大されるもので悪い点が大写しになり自分は悪いものだと思い込みいけないと思い乍ら悪い方えと傾いて行く。

健康でありたいという要求は誰にでもあります。この要求は心理的に病気になつたらどうしようと云う気持を対抗的につくります。

要求の強い人が普通のつかれなどから来た精神的、肉体的な異状感を病気ではあるまいか、どうもいたいと客観化して考えると拡大化されて益々痛くなりどうも悪い様だ。たしかに悪いと想像は悪い方へ悪い方へと向かい、遂にねこんでしまい外見は少しも病人と変らないノイローゼ患者になる事は例が多い事であります。すでにこの様になつた者に悪いと思うから悪いのだ悪くないと思つていくら言つても駄目で悪くないと思つてみなければならないと無理して自分で自分の心をやりくりすると益々悪くなるものであります。

とにかく私は異状心理の状態に学校はあると考えました。それではどうするかとの現像に廻して見る工夫が必要となるわけであります。

何とか良い点を見つけてこれを伸ばして前と逆にして行つて見ようと考えたわけで、人の美点長所を見つけてこれを伸ばして行く教育とはこのことで、どもりの本を読めない子供を読める様にしたのも読めた時これをよく認めてやり自信をつけさす様にしただけの事でたゞ根気よくやつたという事より他にひけつはありません。

勉強しない子供が勉強をしだし乱暴者が素直な子供になつたというのもたゞこの方法によるものです。

ただやたらにほめたりする様な無責任な事をするのでは決してなく良い芽が出かけた時をかんはつを入れずとらえるのであります。それには呼吸がいります。

私の学校では毎朝十分間第一時の学習に入る前に心を落付ける為に珠算をやつておりますが六月の或る日の職員朝礼で二年の或る組が常に最下位をとつている事が話題になつた事がありました。

記録を見せてもらうとなる程全校で最下位をずつと続けているが前日と前々日に各々最下位乍らも平均点が一点づつ上つている。よしとこの機会をとらえた。

「それでは今日私に初まる前三分間かしてもらいたい。そうすれば今日からこの級を最上位にして見せよう」と私は言い切つた。

先生方は皆不思議な顔をせられたが私は教育についての考え方をよく理解してもらうのに良い機会だと思つた。

学級に行つて「この級はほかの勉強は良く出来ているので珠算が出来ないという筈はない。

昨日と一昨日の平均点を見れば上り様になつている。今努力すれば全校で最上位に必ずなると思う。めいそうして心を落付けましょう。

心が落付きました。これからは決して見まちがい、きゝ違いは致しません。ひとりで何も考えません。ひとりでに指がそろばんをはしります。

今日からこの級が最上位になります。では用意して下さい」

と言つて主任と交代したその間三分間。後で各級の平均点を出して見ると断然第一位になつた。

みんな驚き「ほんとだ」とよく了解して戴いた。

海外移住で成功できる人

戦時、戦後の空白期間を過ぎて、海外移住が再開したのが昭和二十五年、この年には、三百二十名が自費渡航者としてブラジルに渡つた。

それ以来現在までにブラジルに移住した者は三万人近くに上つている。

日本人がブラジル移住に成功して、今日のように発展した根本条件は気候や土地が日本人の移住に適し、土地所有権が認められ、人種的偏見がなかつたという恵まれた客観的要素によるものであることは、云うまでもないが、移住した者が全部成功したわけではなく、成功した者のある反面、脱落した者も少くない。

移住に成功するか、しないかは、移住者の心構えによるところが大きい。

海外移住は一生の大事であるから、余ほどの強い覚悟と準備が必要である。

成功するか失敗するかは、個々の事情もあるが、現地で調べた成功型と不成功型は次のようである。

成　功　型

最初の数年間相当苦労することを覚悟し、それに耐えて行ける人、ことに主婦がしつかり者で、苦労に堪える強い性格であることが第一にあげられる。

そして生活力が旺盛で、しかも黙々とよく働く人が成功している。

従つて雇用契約で定められた三年なり四年の期間を完全に過した人でなければ成功していない。

不　成　功　型

大体の傾向として、大酒飲みだつたり、カケゴトが好きだつたり、家庭の中がうまく行かなかつたり、品行がよくなかつたり、更にこんなことからブラジル人の家庭にまで不和を巻きおこすような人は嫌われるし、当然成功の見込みがない。

（農地開拓課調べ）

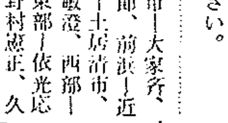
（市）（内）（あ）（ち）（こ）（ち）

消防団役員

南国市消防団の役員はこのほど一部に異動があつた。決定したもの次のとおり。

団　長＝山岡八郎、副団長＝田所良知、〃　福川藤茂、支部長＝細田茂樹、岡本豊志、山下正雄、秋山市郎　分団長＝日章―島内清久、大篠―窪川渉、稲生―吉川雅明、十市―大家斉、三和―高ォ節、前浜―近藤貢、後免―土居清市、南部―利岡敏澄、西部―中村行満、東部―依光応栄、国府―野村憲正、久礼田―浜田善治、瓶岩―野島浩洋、上倉―田岡信雄、岡豊―西山利組、野田―永森可路、光―斉藤族

この欄にむくニュースや話題をおよせ下さい。



＝写真は島村治文氏の手になるブロンズの像＝

市職組各部役員

南国市職員組合はこのほど各部の役員を次のように選任した。（〇印長）

組織情宣部＝〇岩崎畯、池本整爾、浜田静枝、給与対策部＝〇高芝和男、猪野重子、青年婦人部＝〇西山三重、松山家俊、高村富枝、厚生体育部＝〇浜田信喜、島内日出見

なお同職組は専任書記（岡田年秋氏）を雇い入れて活躍中。

「こわいハガキ」

「人事をすつきりしてもらいたい」と、このところ市長と取り引きしている市職組のところへ、先月こわい……こわいハガキ……ハガキが舞いとんだ。アンに、そんなことをしているとこわいことがあるような文面。受取つた職組のサムライたち、もとより一笑。

落花生収穫

香長地区三和の海岸地帯が落花生の生産地であることを知る人は少い。

市役所や農改普及所も作付面積を正しくとつてないがまず一町歩以下というところ。

砂地であるため出来はよく収穫作業も簡単。

畑で実？をちぎると南京袋に詰めて家に運び、乾燥してからカラを割るわけだが地元には加工場もあり、ここを通してから主に高知市内の市場へ出荷されている。

＝写真は収穫風景＝

〃われもまた耕す〃
溝渕氏の胸像建設

市内東崎、溝渕信義氏（六一）の徳を慕う地元の人たちは、胸像設立委員会（会長岡林茂喜氏）を組織して資金を造成していたが、このほど十一万円を投じて東部公民館の玄関前に等身大の立派な像を建設、五日除幕式を行つた。

同氏は元高知大学農学部の講師、地元の青年教育や同和教育に力を尽した。

公僕精神

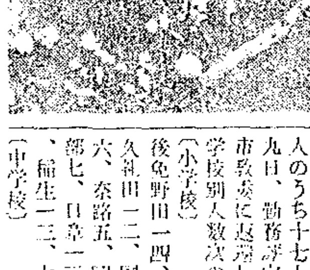
十一月から十二月へかけ、市役所職員の人事が決まらず、本庁の空気はゆるみ気味だつたが、それが領石支所となるともとのままの顔ぶれも手伝つて落ちついた執務ぶり。

これは敬意を表してよいようだ。

キク二題

▽南国市役所に庁舎を譲つて、旧野田村役場に移転した後免県税事務所＝所長は岡豊町出身の竹内紀氏＝は〃税〃というものの牙城、にいくらかでもうるおいを持たせるとともに、外来者のこころをなごやかにしようと、玄関に花畑をつくつた。

職員たちが休暇を利用して仕上げ、花は持ち寄つたもの。＝写真右



▽岡豊町定林寺の農業、中沢政治氏（六七）は二、三年前からキク作りを始め、ことし愛育したもの百余鉢。

一株から直径十センチもある花を二十三も咲かせたものや、巨木の根に枝をはわせて巨松を形どつたものなど、美しいキクの家が出現していた。＝写真下

勤評用紙返還

市内の小、中学校長二十二人のうち十七人は十一月十九日、勤務評定者を白紙で市教委に返還した。

学校別人数次のとおり。

（小学校）
後免野田一四、長岡二六、久礼田一二、国府七、瓶岩六、奈路五、岡豊一四、南部七、日章一三、三和一六、稲生一三、大篠二三

（中学校）
香長二〇、三和一一、十市七、稲生一〇、大篠一三、鳶ケ池二四、白木谷五、岡豊八

なお以上の学校のうち、一部は提出したといわれるが市教委は言明を避けている。

〃おらんく風物〃　本号休載

南国署で移動

（カッコは前任）

刑事課防犯主任へ―大谷彰一（外勤主任）、同課第一主任へ―高島田節（同課巡査部長）、同第二主任へ―正木鶴松（同）、外勤主任へ―三浦悠義（警務主任巡査部長）、刑事課刑事係へ―三木伝（外勤係巡査）

岡豊で公民館結婚

岡豊町初の公民館結婚式がさる二十四日、同町中央公民館で行なわれた。

新郎は同町滝本の会社員、長瀬明夫氏（24）、新婦は市内国府の看護婦、高村睦子さん（24）。

この結婚式は新生活運動の一つとして岡公民館と婦人会が大いに力を入れた。このため結婚届も式場ですませ、酒宴もささやかに公民館で行なつた。

これをどうみる　青少年非行例

十一月から十二月へかけて南国署があつかつた市内の青少年の非行事件は、考えさせられる多くのものを持つている。

以下あげる事件を他山の石として、わたしたちは青少年の防犯を強固にしなくてはならないし、法をおかしたこれらの青少年には愛の手をさしのべて再犯の根を断たなくてはならない。

また、この記事は暴露のために取り上げたものではなく、あくまでも資料の一つとしてである。

▽ある中学生たち（三人）は不良文化財などの刺激から、婦人へのいたずらを思いたち機会を狙つていたが、十一月二十八日夜、一人歩きの娘を山道で襲い、首を締めて押し倒したが、一人が体の一部に噛みつかれたため、金を奪つただけで逃走（金は途中投げすてる）していたが強盗の疑いで検挙（任意取調べ）された。

▽また某青年（二一）は、暴行と恐喝の疑いで逮検された。

これはこの夏、ある青年にささいなことから文句をふつかけて殴り、さらに通行人をおどして酒を買わせ、その上まだ殴つたり、飲食店の仲居さんまで捲きぞえにして暴行したもの。

▽中学生のまじる五人組グレン隊もつかまつた。

単独や共謀して盗みを仂いたり、通行人にいんねんつけて殴り腕時計をおどし取つたり十二件にのぼる非行を重ねていた。

この青少年たちに適用される罪名（判決までは疑い）は窃盗、暴行、恐喝、傷害、欺詐、住居侵入など。

このようにして犯かされる非行は、とくに少年の場合親や兄弟の知らぬことが多く、警察ザタになつて初めてさわぎ始めることが多い。わが子を、兄弟を、年少の隣人を信じなくてはならないが、以上のような事例を考えるとき、わたしたちの心は痛んでくる。